

地獄ハイキング

 温泉マイスターガイド・オリジナル!

豊後大野ジオパークコース



.....

お願いとご注意 歩くときは危険がつきもの

- 歩いて実感するのは危険がつきもの。特に地熱地帯は高温の場所です。足元には十分注意を。沸騰している場所もあります。
- 歩くときは足元の準備、水の準備、そして体調と心の準備を。
- 別府では、自然であっても持ち主のある場所がほとんどです。見学するときは、きちんとお願いしてください。



地獄ハイキング

豊後大野ジオパークコース



轟橋

ハイキングの見所と目的



温泉マイスター協会

シニア・マイスター 甲斐 心也

鉄輪の地獄地帯公園をスタートし、道の駅みえで「江内戸の景」を見ます。次に、国の重要文化財「菅尾石仏」に行き、ジオパークの中核施設「ジオパークミュージアム」を見学します。その後、「沈墮の滝」、「原尻の滝」を経て、奥嶽川にかかる「出会橋・轟橋」を見て、帰路につきます。

おおいた豊後大野ジオパークの主要なジオサイトを巡り、今からおおよそ9万年前に起きた阿蘇火山の巨大噴火による火砕流に埋め尽くされた後、大野川の浸食により自然豊かな大地がよみがえった様子を体感します。

ハイキングコース

- ①スタート 鉄輪地獄地帯公園
- ②道の駅みえ
- ③菅尾石仏
- ④豊後大野市資料館
- ⑤沈墮の滝
- ⑥原尻の滝
- ⑦出会橋・轟橋
- ⑧ゴール 鉄輪地獄地帯公園



Start

1

鉄輪地獄地帯公園



ここに集合して、自家用車に乗り合いで出発します。

- ・鉄輪地獄地帯公園→別府 IC →東九州道→
米良 IC →戸次→犬飼→道の駅みえ

2

道の駅みえ（江内戸の景）



道の駅みえの展望所から「江内戸の景」を眺望します。
100 mもの厚さの阿蘇溶結凝灰岩を、大野川が9万年かけて削ってできたのが「江内戸の景」です。河岸段丘は4段あり、その間には田植えの済んだ田んぼが広がっていました。

我が家のリビングには、50年以上前に義父が描いた、この景の油絵が飾ってあります。立派な平成大橋はまだ無く、川の水量が増すと水面下に沈んでしまう沈み橋（沈下橋）が懸けられています。

- ・道の駅みえ→菅尾小学校入口信号右折→菅尾石仏

3 菅尾石仏



「菅尾磨崖仏」は豊後磨崖仏の白眉ともいえる優れた石仏で、ふくよかな顔つきや柔らかい肩の線など、平安中期に都で流行した定朝様式を取り入れており、「国の重要文化財」と「国の史跡」の二重指定を受けています。

向かって左から千手観音、薬師如来、阿弥陀如来、十一面観音の4体で、像高174～191cmです。お顔や腕、胸、光背に赤い顔料が塗られていますが、文化財指定前に住民が信仰の対象として塗ったものだそうです。ただし、製作時に表面に金を塗る下地として赤い顔料が塗られていて、時を経てもそれが残っていたので、住民によって繰り返し塗り重ねられていたとも考えられるそうです。

・菅尾石仏→菅尾小学校入口信号右折→
豊後大野市役所入口左折→豊後大野市資料館

4 豊後大野市資料館 (ジオパークミュージアム)



阿蘇火山が4回目の巨大噴火を起こし、大量の火砕流が噴出しました。火砕流は九州の大半に広がり、ここ豊後大野にも厚く堆積しました。火砕流は冷えて固まり、溶結凝灰岩と呼ばれる岩石となりました。

度重なる火砕流により形成された豊後大野の大地の特徴やその形成過程を紹介するほか、溶結凝灰岩の実物も展示しています。

ここでは、豊後大野市内に分布する岩石と産出された化石を展示しています。また、野田雅之博士によって収集された貴重な化石・鉱物を展示しています。

・豊後大野市資料館→国道502号を西進→
沈墮の滝案内板を右折→沈墮の滝

5 沈墮の滝



室町時代の水墨画家「雪舟」が「鎮田瀑図」を画いたことでも知られる「沈墮（ちんだ）の滝」は、阿蘇4溶結凝灰岩の岩壁が崩落してできた滝で、雄滝（幅 100 m、高さ 20 m）と雌滝（幅 10 m、高さ 18 m）の2つの滝があります。明治 42 年（1909）、大分～別府間を走る別大電車のために豊かな水量を活用した沈墮発電所が運転を開始。滝の上流部には幅 115 m、高さ 5.5 m の沈墮ダムが建設されました。

別大電車が開通したのは明治 33 年で、当初は別府に火力発電所を作り（現在のゆめタウンの通り向かいのコンビニ・ローソンのあたりに全国 2 番目の火力発電所として設立）、電力を供給していました。しかし、更なる路線伸延と増便のためには、より多くの電力を必要としました。そこで、沈墮の滝に水力発電のためのダムを作る事になったのです。

・沈墮の滝→国道 502 号に戻る→西進→清川駅→原尻の滝

6 原尻の滝



おおいた豊後大野ジオパークのHPを引用します。
「緒方平野に突如現れるこの滝は、幅が 120 m、高さ 20 m で、崖面には柱状節理を見ることができ、滝上の河床では多角形の亀裂が入った溶結凝灰岩の上面を観察することができるほか、滝上から滝つぼを見下ろす崖の縁まで容易に近づくことができます。また滝つぼには、節理に従って崩落した凝灰岩が多数見られ、滝ができる過程を実際にふれることができる場所となっています。」

毎年11月中旬に行われる「緒方三社 川越し祭り」は、滝の右岸の応神天皇を祀る二宮社に、一宮社の父仲哀天皇と左岸の三宮社の母神功皇后が集まるために、三宮社の神輿が滝の上流を渡るの見どころです。

・原尻の滝→国道 502 号清川方面→県道 634 号右折→出会橋・轟橋

7 出会橋・轟橋



清川町の出会橋、轟橋は、アーチの長さが日本第1位と第2位で、すぐそばに並んで架けられています。

「出会橋」は豊肥線牧口駅（現豊後清川駅）が開業した折に鉄道へのアクセスをよくする目的で、大正13年に川の兩岸の轟・平石地域の人々が協力して作った人道橋です。径間29.3mは日本第2位です。

「轟橋」は昭和9年に、祖母傾山系の国有林から切り出される多量の木材を、トロッコ鉄道で運び出すために営林署が作りました。径間32.1mは日本第1位です。

・ 出会橋・轟橋→途中、国道57号のバイパス→犬飼→戸次→米良IC→東九州道→別府IC→鉄輪地獄地帯公園

Goal 8 鉄輪地獄地帯公園



今回のツアーはこれで終わりです。
皆さん、お疲れさまでした。